

木古内駅デザイン案【B案】

波と森のプロムナード～北の交流発進地

“過去・現代・未来、波のリズムと木漏れ日がつなぐ駅”



- ・ 過去から、現代、未来へとつながる木古内町の歴史性を、打ち寄せる波のリズムや、木々の合間に満ちる、木漏れ日のイメージに乗せてデザインすることをテーマとしています。
- ・ 垂直性を強調したリブ状の壁面は、間隔を徐々に変え、寄せては返す津軽の浜辺の波を表現します。そして、その力強い表現は、北の大地にしっかりと根を下ろし、たくましく生きる木々や人々のイメージにもつながります。
- ・ 外壁のガラス面から差し込むやわらかな日差しは、まっすぐに伸びた木々の幹を床面に描き出し、これからの町の発展や小さな幸せの連なりがいつまでも続いていくことを、人々の心に刻みます。

(案のA、B、Cについては、順位を示すものではありません。)